

ではなく「その吊り橋なら、こう行けばたどり着けるよ、頑張つて！」なんて声をかけてくれる町になったら、そのカップルはきつと、何度もこの町に来てくれることでしょう。

人生の節目に思い出し、また訪れたくなる町へ

本企画の対象をカップルとしたのは、人生の節目節目に訪れてもらいたいという意図があったからです。恋愛中、ここを訪れ、2人が助け合っ

て吊り橋を渡り、愛を確かめ合ってもらおう。いずれ恋愛が成就して、吊り橋の上でプロポーズなんていうエピソードも生まれるかもしれません。この町が、カップルの思い出の地として、何度も訪れたくなる場所にしていきたい。ゆくゆくは、吊り橋を活用した「恋人の聖地」になつていくのが理想ですね。



若い人たちの熱意を積極的に応援したい

この企画を実行すると事務局から説明があったとき、自分もぜひ協力したいと思いました。今は店内にパンフレットを置き、来店されたお客さんに、積極的に説明するようにしています。皆さん、興味深げにパンフレットを読んでくれてますよ。わたしたちとお客さんが会話するきっかけにもなりますから、とてもありがたいこと。既に数件のカップルが、券を利用して来ています。限られた予算の中で、頑張っている青年部の自発的な取り組み。お付き合いだから、ではなく、彼らと同じ目線で取り組むという意識で、応援していきたいと思っています。

商工会青年部だからできることがある

商工会青年部は、さまざまな業種の若者が集まる組織です。こういった組織は、ほかにはないかもしれません。いろいろな視点で物事を見つめることができ、意見を持ち寄ることがができます。そのメリットを生かして、本企画もどんどん改良し、新しいアイデアでより良くしていきたいと思えます。

今回の企画は、立ち上げて完了ではありません。どうすれば、この町の商工業がうるおうか、この町全体が元気になるかを追求するためにア

人生の節目に訪れてもらえる町にしたい
実際に幸せをつかんだ人が広告塔となり
周りのカップルにも広めてくれたら、
いつかこの町が「恋人の聖地」になれるはず

仕事ではなく、プライベートで訪れたい場所

テレビ静岡の番組「テレしず通りパロパロ」の中に「あの記事この記事どんな記事」というコーナーがあります。これは、県内で発行される新聞記事から、気になる記事をピックアップして紹介するコーナーです。わたしがこの「奥大井サスペンスブリッジ恋愛事件」を新聞で読んだときに「これは一体どんな企画なんだろう？」と興味がわき、取り上げようと思ったんです。実際にこちらに取材に来てみると、新緑や水の色がきれいで驚きました。ここの自然がとても新鮮に映りました。県内には、さまざまな動きや情報、取り組みが数多くあります。そこを実際に訪れ、話を聞くことで、初めて知ることたくさんあります。この企画も、その中の一つ。今度はぜひ、プライベートで来てみたいと思っています。



特集

Only one オンリー・ワン

ここにしかない資源を生かし、新しい発想で勝負する川根本町商工会青年部の挑戦

アイデアを出し続け、この企画をさらに充実させていきたいと思えます。

町のために動くことは「自分」のためにもなる

町のために動くことは、ゆくゆくは「自分のため」にもなると思っています。身体を使い、知恵を出し、みんなで一つのことに取り組んでいきたい。それが商工会青年部自体の結束力の強化にもつながっています。

事務局の西澤君が言うように「商工会青年部は、何をやっているのか分からない組織」と見られてきました。「商工業の発展、町の活性化のため」ということが十分浸透していなかったと思います。今回の企画で、町の人たちの見方が変わってくればうれしく思います。青年部は、町の「縁の下の力持ち」でありたい。この町を元気にするきっかけを作り続けていきたいです。

町のみんなに知ってほしい、興味を持ってほしい

この企画は5月、新聞紙上で取り上げられました。それ

によって商工会への問い合わせ電話も相次いでいると聞いています。わたしが管理するブログも、アクセス数が急激伸びています。町外の人たちに、関心を持ってもらうことができてほっとしています。まずは「知ってもらうこと」が一番大事。すべてはそこからです。町内の人たちにもぜひ興味を持ってほしい。何もしないところからは何も生まれません。わたしたち青年部

は一步を踏み出すことができました。これからこの企画をより良くしていけるのは、わたしたち青年部はもちろんですが、何よりこの町の人たちの参加だと思っています。何も、観光業を営む人だけではなく、観光業を営む人だけではなく、飲食店も、鉄工所も、電器店も、お土産屋さんも、農家の人も、みんなで関わり、みんなで盛り上げていける企画だと思っています。わたしたち青年部は一連托

生、運命共同体です。そしてこの町の人々は、本町の運命を握る一つの共同体なのです。いろいろな人たちが協力してさらに元氣な町に。町のみならず、訪れたカップルと触れ合い、もてなすことができる「恋人の聖地」に。大きな大きな理想ですが、決して夢物語ではないと思っています。わたしたちが作ったきっかけを、この町全体で生かしていけたら最高です。



おおむら ●よしひこ (大間)
本年度から3年間商工会青年部部長を務める。寸又峽温泉で昭和38年創業の宿「光山荘」の若き3代目。「最近、青年部部長として責任が増し、意識が変化してきた。今後も積極的に活動する青年部でありたい」と話す40歳。愛称は「若旦那」。